

実践記録

131

シリーズ

三条市通学合宿事業の取り組みについて

三条市中央公民館 館長補佐 長橋 勝芳

1. はじめに

この事業は、合併前の平成13年度から下田地区（旧下田村）で取り組んできた事業です。子どもたちが学校へ通いながら家庭を離れて共同生活を行い、様々な体験（学習・食事づくり・洗濯・清掃等）を自主的・主体的・共同的に行うことで、子ども自身や家庭・地域の教育力の向上につながり、よい教育効果をあげていると考えられるため、この事業を広げ、三条市全体として平成19年度から取り組みを実施しています。



2. 内容

期日等	第1班：平成20年9月30日(火)～10月4日(土) 4泊5日 よつげ邸 第2班：平成20年10月14日(火)～18日(土) 4泊5日 三条市グリーンスポーツセンター 第3班：平成20年11月11日(火)～15日(土) 4泊5日 三条市グリーンスポーツセンター
内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> 市内24の小学校を下田地区、嵐北地区、嵐南・栄地区の3つの地区に分け、募集を小学生6年生を対象（下田地区は5、6年生）にそれぞれ30人（下田地区は20人）としました。下田地区以外で対象を小学6年生に絞った理由は、下田地区と比較して対象児童が多いこと、中1ギャップ対策としての効果を期待することなどから対象学年を限定したものです。 応募状況は、下田地区で18人、嵐北地区で34人、嵐南・栄地区で26人の応募がありました。嵐北地区で定員を4人オーバーしましたが、この事業は6年生が対象で、来年以降の参加は出来ないため、抽選は行わずに全員を参加させることとしました。 スタッフは、新潟経営大学と新潟中央短期大学の学生をボランティアとして、連日、宿泊してもらい、子どもたちへの指導や支援を行ってもらったほか、関係団体として三条市食生活改善推進協議会及び三条市健康推進員協議会の方々からスタッフとして協力していただきました。食生活改善推進委員の皆さんからは期間中の朝・夕の食事づくりと子どもたちの食事づくりの指導を、健康推進員の方々からは集団生活でのマナーや入浴・洗濯指導などを行っていただきました。また、参加児童の保護者にもボランティアを募集し、期間中、食事づくりや子どもたちの生活支援などの協力をいただきました。

3. 事業の成果

- 子どもたちは、共同生活を通じて、未体験の場面や戸惑いがあったようでしたが、自分自身で考え行動したり、友だちと協力しながら乗り越えていく中で、やり遂げることを実感し、人間関係を深めることに喜びを感じることができたようでした。
- 他校の児童の参加により、同世代との集団生活や様々な体験を通して、学校を越えた心のふれあいや交流が図られました。また、子どもたちと関わった学生ボランティアや食生活改善推進委員、健康推進員、保護者の方々などと世代を越えた新しい輪が広がりました。
- 子どもたちは、ふだん家事を手伝うことが少なく、参加した児童の家庭からは、食事づくりや掃除など積極的にお手伝いをしてくれるようになったという声が寄せられており、親子のふれあいの場づくりの一助になったのではないかと考えています。



4. おわりに

大変な事業であり、運営にあたった支援スタッフや公民館職員も戸惑いながらの実施でしたが、この事業を通して、子どもたちから得たものも多くありました。参加した子どもたち一人ひとりの様子や笑顔が今でも心に残っています。子どもたちが健やかに成長していくことを願っています。